永井龍男全集

第十二巻

永井龍男全集 十二

講談社

俳句集

永井龍男全集 第十二巻
昭和五十七年五月二十日 第一刷発行

著者 永井龍男
発行者 三木 章
発行所 株式会社講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一
郵便番号 一一二
電話 東京(〇三)九四五―一一一一(大代表)
振替 東京八―三九三〇
定価 四二〇〇円
装幀 原 弘
印刷所 信毎書籍印刷株式会社
製本所 島田製本株式会社

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部宛にお送りください。
送料小社負担にてお取替えいたします。
© Tatsuo Nagai 1982, Printed in Japan

ISBN4-06-119292-2 (文1)

目

次

俳句集

文壇句会今昔……9
文壇句会今昔・拾遺……277
雲に鳥……341
雲に鳥以後……383

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

永井龍男年譜……415
著作年譜……443
書誌……489
あとがき……547
解題……555

本文入り写真・提供　文藝春秋

永井龍男全集　第十二巻

俳句集

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

文壇句会今昔

—東門居句手帖—

俳句余技の説

二人の先達

思いがけないことに、今度自分の句をひとまとめにする機会を得て、三十年前二十年前の古い句手帖をあれこれ引っぱり出しているうちに、おのずと「いとう句会」や「文壇句会」の記録に触れずには昔を語りがたいと知った。

もともと、古い句を集めて一冊にするようなつもりは私にはなく、古手帖の一句の周辺にある旧事を偲びながら、雑文とも句集ともつかぬものができたならと思って始めた閑文字だったが、書きつづけるうちに、標題のような「文壇句会今昔」―東門居句手帖―というほどの内容になった。

「いとう句会」については、後で記すことにして、「文壇句会」は昭和十二年二月、第一回を赤坂弁慶橋際の清水谷公園内「皆香園」で催し、十六名の文筆人が顔をつらねた。

「珍らしきは杉村楚人冠（危秋）、コシャマイン記（芥川賞受賞作家）の鶴田知也」というような書き出しで、

久米正雄、久保田万太郎、吉川英治、横光利一、佐佐木茂索、徳川夢声、内田百閒、安成二郎、小島政二郎、瀧井孝作、渋沢秀雄、山崎斌、深川正一郎、永井龍男が出席、投句のみに室生犀星、邦枝完二、川口松太郎の名がある。

二頁見開きの記事で、高点句が披露されている。（文藝春秋昭和十二年四月号）

うららかや袱紗畳まず膝にある　正雄

東風吹くや病髯なれば柔き　万太郎

凍解のとけかねてゐるところかな

すでに灯りはしつれどもうららかに

藪の中に猫あまた居り春暮るる　百閒

春空に伝書鳩放たれぬことごとく　知也

春の夜に飯の白きを眺め居る　犀星

やはらかき草被むりゐるすみれかな　孝作

徒らに裳をかかぐうららかに　危秋

板前の飼ふ鶯の夜更しかな　英治

野菫の縁に散るまま戸の閉まる　利一

流木や芽立ちて砂洲に横はる

石畳長きに梅の匂ひけり　斌

白梅の咲きかたまれるところあり　正一郎

第二回は、同年三月二十七日に同じ会場で開催され、新顔として佐藤惣之助、土岐善麿、室生犀星（前回

は出句のみ）に、川端康成も参加している。

天主公教会の庭木に登り春の子ら　康成
黄蝶白くなりゆくをみつつ遙けさよ
藁芥つくしのあたまそろひけり　犀星
あたたかに乾きてならび墓手桶　万太郎
風呂立つや石炭箱の落椿　孝作
連翹に隣は誰か病むらしき　善麿

第三回は四月二十七日、初参加の細田源吉他九名。

カンカン帽一つ下車して夏めける　源吉
貸しもせず住みもせずあり今年竹　英治
自転車の立てかけてある新樹かな　秀雄
楓にはみぢんに花や水馬　正一郎
草履緩う藤の垂り花見て通る　茂索
界隈のけやき若葉や夕歩るき　孝作

第四回は五月二十七日、常連十一氏の他、下島空谷、加宮貴一が初参加した。

窪町の屋根の中なる桐の花　英治

夫婦共教師の家や桐の花　知也
丸髷のいよいよ小さき更衣　空谷
小窓から見るたび見ゆる枝蛙　英治
柿若葉日光の油つけてゐる　孝作
短夜の女なりしよ水の宿　惣之助
苦のうち人なき如き螢かな　斌

第五回は同年六月二十七日。桜木俊晃が初参加、遠藤為春、杉村楚人冠が投句している。「万太郎宗匠ついに姿をあらわさず、流石に句座のさびしさをおぼゆる」と、記事の前書きにある。

繋がれし舟ゆれあふや青嵐　為春
さまざまのもの動きをり夜光虫　貴一

第六回は、「夢声帰朝歓迎句会」と銘を打ってある。同年七月二十七日、欠席投句者に、遠藤為春、杉村楚人冠の他、川尻清潭の名がある。

向日葵の花より低く日の落つる　俊晃
時計草買へば咲かなくなりしかな　夢声
派出所の宿直室の金魚かな

発会以来毎月二十七日と定めてきちんと催されていたが、この第六回以後ながく跡切れている。出席者九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com